

中村哲 なかむら たけし 政治學者。明治四十五年（一月四日）東京生れ（一九二一）。昭和九年東京帝國大學法學部卒。十七年臺北帝大教授、二十一年法政大學教授、四十二年同大總長兼理事長、翌年日本政治學會理事長、五十八年參議院議員。

著書 『植民地統治法の基本問題』（昭和十八年十月十日日本評論社）、

『回想の二木清』（合著・谷川徹二編、昭和二十二年一月十五日文化

書院）、『官吏制度の研究』（合著・鈴木安藏編、昭和二十二年二月

一日同友社）、『現代ビエーターリズム』（合著・森玄一編、昭和二十

二年五月一日ナウカ社）、『批判現代知識階級論』（昭和二十二年九

月十日批判社）、『民主主義の理論』（合著・堀真琴、植俊雄編、昭和二十四

年二月一日愛育社）、『革命—理論・史論』（合著、二十世紀研究所

編、昭和二十四年五月二十日思索社）、『國法學の史的研究』（昭和

二十四年六月十日日本評論社）、『抵抗の學窓生活』（合著、昭和二十

六年九月二十日要書房）、『學生生活』（合著・大河内一男編、昭

和二十七年五月二十五日新評論社）、『現代の鬱鬱』（昭和二十一年

七月二十日東方社「東京新書」）、『政治への不信』（昭和二十一年

十月十五日東業之日本社「現代を生きる考え方」）、『よみがえる暗

黒—警察國家への危機』（小田切秀雄編、昭和二十二年十一月二十五

日第一評論社）、『首相公選論—その主張と批判』（合著・吉村正編、

昭和二十七年十一月二十日弘文堂「フロンティア・バックス」）、『柳

田國男の思想』（昭和四十一年九月二十日法政大學

出版社）等。

